

済生会松阪総合病院 循環器内科

# 冠動脈疾患治療 が一步前進！

New Approach in Coronary Revascularization

## ロータブレーター導入のご案内

2022年の済生会松阪総合病院のスローガンは“一步前進”です。

「コロナ禍でもやれることがある！」そういう強い思いで、日々新たな医療を考え、実行に移してきました。冠動脈疾患治療におけるロータブレーターの紹介をさせていただきます。



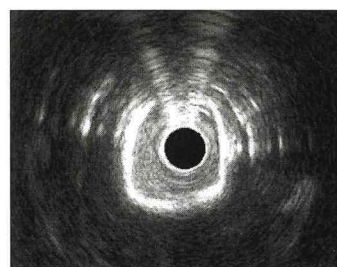
# 石灰化病変に挑む！

1977年に初めて臨床応用されたバルーンによる冠動脈形成術（PCI）は、それまで薬物療法や冠動脈バイパス術による血行再建しかなかった冠動脈治療の新たな選択肢となりました。その後、様々なデバイスの開発により、虚血性心疾患で苦しむ多くの患者様の症状・予後の改善になくしてはならない治療手段として確立されました。しかし今もなお立ちどころな大きな壁があります。それが“石灰化病変”です。石灰化病変に対しては古くからロータブレードと呼ばれるダイヤモンドチップをコーティングした金属バーを搭載した治療器具が用いられてきましたが、施設基準のため、限られた施設でしか使用することができませんでした。しかし令和2年の診療報酬改定において、施設基準が緩和され、多くのPCI実施施設でロータブレードの使用が可能となりました。当院においては、三重ハートセンターで研鑽を積んだ澤井医師（心血管カテーテル治療学会専門医）が令和3年4月より赴任したことを機に、勉強会やシュミレーション、コメディカルの施設見学など綿密な準備を進め、同年10月に第一例目のロータブレードを用いたPCIを無事成功することができました。その後も症例を重ね、今日まで合併症なく治療することができております。ロータブレード導入前は、他院に紹介をさせて頂く必要がありましたが、当院での冠動脈疾患の治療の幅が広がったことで、さらに多くの患者様に貢献できるのではないかと考えております。一歩前進した当院の循環器診療をどうぞご活用ください！万全の体制を整えて虚血性心疾患の患者様のご紹介をお待ちしております！



## ロータブレードの構成

- (A) バー
- (B) アドバンサー
- (C) コンソール



血管内超音波で観察される冠動脈の全周性石灰化